

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402096		
法人名	有限会社 山崎メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 琴音		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴1丁目12番10号 093-562-5750		
自己評価作成日	平成26年02月05日	評価結果確定日	平成26年03月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人との関わりを大切にし、それぞれの人格を尊重し、自然に喜怒哀楽が生まれるようなホームを目指します。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「琴音」は、九州歯科大や到津動物園の近隣に位置し、国道3号線沿いの利便性の良い場所で、開設10年目を迎える2ユニットのグループホームである。ホームの玄関前には、イチョウの大木や藤棚のある公園、川沿いの桜並木があり、利用者の散歩コースとなっている。管理者の介護に携わる思いが職員に伝わり、家庭的な環境の中で、喜びや感動を受けて、利用者の「自己選択、自己決定」を優先し、家族の高い評価を受けている。協力医療機関の往診と、介護職員による連携体制は、利用者の健康増進と、家族の安心に結びついている。また、調理上手な職員が、愛情込めて作る料理は、彩り、味、盛り付け等に気を配り、利用者の食欲増進に繋げ、利用者の健康管理は万全のものがある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成26年03月14日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し職員がいつでも見れるようにしその理念を共有することと実践につながる様に努めている	ホームが目指す介護のあり方を示した独自の理念を、見やすい場所に掲示し、毎月の職員会議で唱和し、職員は、理念の意義を理解し、家庭的な環境の中で、喜びや、感動を受けて、「自己選択、自己決定」に拘り、自信回復に繋がる、介護サービスの提供を目指している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事に積極的に参加し地域との交流を深めている	マンションの2階部分にホームがあるので、防災訓練を地域住民と合同で行い、町内の運動会に参加し、相互交流が行われている。また、散歩コースの板櫃川沿いの桜を見ながら、顔なじみの地域の方と立ち話したり、前の公園の藤棚の下で花を見ながら、楽しい食事をして、地域に積極的に出かけている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内だけでなく地域の方に活かせるように努めている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開いておりサービス向上にそれを活かしている	会議は2ヶ月毎に定期的に行われ、ホームの運営状況や取り組み、事故報告や課題等を報告し、参加者から、質問や要望、情報等が出され、有意義な話し合いが行われている。出された意見や要望は検討し、出来るだけホーム運営に反映出来るように努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を通して地域包括センターや民生委員との連携を築いている	行政窓口、困難事例や疑問点を相談し、情報交換し、連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を理解した上で、アドバイスや情報を提供して貰い、協力関係を築いている。また、月1回の介護相談員の受け入れも実施している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修は、もとより外部研修に参加し身体拘束禁止に対して意識を深めている	外部や内部の研修会に、職員が交代で参加し、新聞に掲載された情報を職員に伝え、身体拘束が、利用者には及ぼす影響を理解し、職員間で具体的な禁止行為について話し合い、再確認し、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の人権を守ることが、ケアの基本であると認識し、職員同士で注意し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止と同様に虐待防止についても内外研修、ミーティングに於いて意識を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会の参加を通して理解を深め活用できるように支援している	現在、制度を活用している利用者はいないが、外部の研修に職員が参加し、資料やパンフレットを用意している。利用者や家族が、日常生活自立支援事業や成年後見制度を、必要とする時には、制度の内容や申請手続きについて説明し、関係機関に橋渡し出来る支援体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について締結、解約、改正した場合適切に説明し書面をもって理解や納得できるようにしている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を含めて家族の方が意見や要望を言いやすい環境を作りそれを運営に反映させている	面会や行事参加の時に、職員が家族と話す機会を設け、利用者の生活状況や健康状態を報告し、家族の意見や要望、心配事等を聴きとり、ホーム運営や介護計画作成に反映させている。また、意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示し、意見や要望がいつでも言える環境を整えている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで運営に関する意見や提案を聞く機会を設けそれを反映させている	毎月ミーティングを、参加できる職員で実施し、利用者の状態と今後のケアについて話し合い、介護計画の見直しを行っている。また、ホームの業務改善について、職員から積極的な意見や要望が出され、反映出来るように努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を管理し労働環境のさらなる改善に向けて努力し整備に努めている		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	労働基準に基づき又職員の意見を聞き働きやすい環境を目指し努力している	職員が働きやすい職場を目指し、勤務時間や希望休等、家庭環境にも配慮した勤務体制を整え、職員の経験年数により、段階的に資格取得のサポートをしている。また、職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や高齢者ケアに対する考えを重視して採用している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に掲げ又勉強会を設け活動、教育に取り組んでいる	法人の全体研修で、「高齢者の人権問題をめぐって」と題して職員の人権教育に取り組み、職員が理解し、利用者の人権を守る介護のあり方について話し合い、理念にも「利用者一人ひとりの生活、人権の尊重」と明示しており、職員は、利用者の人権尊重の啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限りの研修を受ける支援、個々にあった研修を務めながら出来るように支援が出来るようになっている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のGHは、もとより外部のGHとの交流を深めてサービス向上の取り組みが出来ている		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居時にも本人の要望や不安な事を聞き今後のサービスにつながる様に努めておる		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談も行い不安や希望など聞き関係づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族を含め面談し支援の優先順位を聞き介護計画に反映できるように、努めている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活から職員と利用者という立場の元にパートナーとしての関係を築いている」		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出を含め家族との協力が大切であるかを理解していただき共に支えることが出来るように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出を通し以前いた所の人や場所を思い出すように何らかの形で支援している	利用者の高齢化に伴い、友人、知人の訪問も減少し、馴染みの関係を継続するのが、困難な場合もあるが、行きたい所や買い物、食べたいもの等、興味のあるものに、職員の協力で挑戦してもらい、家族の協力を得て、利用者が、長年築いてきた馴染みの人間関係や、地域社会との関係が、継続出来るように取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用同士の潤滑油になり時として良き相談会手になれるように支援している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了してもこれまでの関係を継続し退所後の支援に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意見も含め本人からも聞き本人の希望に叶うように暮らしが出来るように支援している	職員は、利用者の思いや意向把握のために、常に利用者と話しをし、利用者の本音の話を聴き取り、ケアの実践に活かしている。意向や思いを、表出するのが困難な利用者には、家族やベテラン職員に相談し、利用者に寄り添い、職員は、利用者の一寸した変化も見逃さず、思いや意向に近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援に重ねて本人の生活歴や暮らし方など把握し支援に活かしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活を観察し現状の出来る事出来ないことを見極めて支援に活かしている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者含めて意見を重ね現状に沿った介護計画を作成できるように努めている	利用者や家族の、意見や要望を聴き取り、毎月のモニタリングの中で検討し、利用者や家族が、満足できるような、利用者本位の介護計画作成に取り組んでいる。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の作成をその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、不可欠なものでありそれを基に情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間の経過とともに心身状態や家族の状況も変化しその都度生まれるニーズに対応できるように取り組みが出来る		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の出来る力を把握し地域の資源を活用し安全に暮らせるように努めている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の心身状態を把握し関連の病院で受診できるように支援が出来ている	利用者の大半が母体医療法人の、かかりつけ医となっているので、継続して月2回の往診と訪問看護と協力し、安心して医療が受けられる体制を整えている。他科受診や、昔からの馴染みのかかりつけ医との連携を図り、医療情報を共有し、利用者の健康管理は充実したものがある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受け職員は、日常の状態を把握し訪問看護の方と情報を共有できるように入居者が、適切な受診、看護受けられるように支援が出来ている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、速やかに情報提供し早期退院に向けて病院と連携できるように関係作りを行っている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し事業所としての指針を示した文書を私確認書を交わしている	契約時に、利用者や家族に、ターミナルケアについて説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進む中で、段階的に家族や主治医を交えて、今後の支援体制について話し合い方針を確認し、職員全員で共有し、家族の要望があつた時は、看取りに向けての支援体制を整え、利用者や家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生訓練や防災訓練を通して対応できるように職員は、備えている		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	値域の方を含めて防災訓練をしており全職員が、避難方法を把握できている	年2回防災訓練の内1回を、本格的に地域住民の参加を得て実施し、大変さを実感した上で、職員全員で課題を検討し、避難場所の公園に、利用者が安全に避難出来るように、マニュアルを整備し、近隣の系列事業所職員との連携も図り、いざという時の体制を確立させている。また、非常災害に備えた、非常食や飲料水の備蓄の用意もしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げているように職員は意識し個々のプライバシーも同時に大切にするように心掛けている	職員は、利用者を経験豊富な人生の先輩として、敬愛し、教わることが多く、長い付き合いの利用者と職員が多いので「慣れ」による言葉かけにならないように、礼節をもってケアに取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管は大切に行い、職員の守秘義務は、誓約書を取り、職員の理解と自覚により周知されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員は、傾聴し入居者本位の介護が出来るようにすると同時に入居者の尊厳を守りながら自己決定できるように支援している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを優先し 職員本位のペースにならないように心掛けその日その日を大事に生きる支援をしている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る出来ないに関わらず普段の生活にメリハリが出来るように身だしなみの支援が出来る		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせながら食事の手伝いをして頂き好きな食べものを、楽しんで食べるように支援している	食事は利用者の楽しい時間であり、調理上手な職員が作る美味しそうな匂いに誘われ、利用者がリビングルームに集まり体操をし、食事の準備が始まり、職員が利用者に食べたいものを聴きながら献立し、利用者と職員が、一緒に食べながら、会話が弾む楽しい食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成しそれを基にひとりひとりの状態や生活習慣に応じた支援が出来るように努めている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実行し訪問歯科との連携を通じてケアが出来ている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄習慣を把握し自立出来る方への支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンを把握し、利用者の動きや表情を察知し、定期的に早めの声掛けや誘導で、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。職員のきめ細かい見守りで、利用者の自信回復に繋がる排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服だけに頼らず運動や食事を通じて予防に努めている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴習慣を把握し入居者に合わせて入浴が、楽しめるように支援している	入浴は、週3回を基本とし、利用者の希望や体調に配慮した支援を行い、毎日入ることも可能で、利用者一人ひとりが、ゆっくり入浴を楽しんでもらえるように取り組んでいる。また、入浴拒否の利用者には、職員が時間を置いて声かけし、無理強いせずに、利用者の意志を尊重し、臨機応変に本人本位の入浴の支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を常に把握し状況に応じて安息できるように支援できている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者内服一覧表など作成、新規に処方された薬の情報も各職員に確認と理解できるように出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合わせて気分転換等が出来るように支援している		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態を把握しながら希望に沿って外出や行きたい場所へ行けるように支援できている	全員での外出は、利用者の重度化で難しいが、利用者の希望を聴き取り、個別やグループ単位の外出の支援に取り組んでいる。買い物や、花見、ドライブや、「本屋に行きたい」といわれる利用者と一緒に、出掛けたりして、利用者の気分転換に繋げている。また、家族の協力で、外出や、外出に出掛けている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	嗜好品など利用者の希望に合わせて買い物に出たりお釣りのやり取りなど出来る支援をしている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	生活するうえで家族とのつながりは、不可欠であり色々な手段でつながりが出来るように支援している		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者が、常にいるので不穏にならないように工夫し生活感、季節感を出して居心地良い場所となる様に支援している	6階建てビルの、2階部分の病院跡を改築し、手づくりの作品や写真、季節の飾り物を掲げ、家庭的に演出し、利用者が安心して、落ち着いて暮らせる支援に取り組んでいる。利用者は、リビングで過ごすことが多く、ゲームや歌、作品作り等でのんびりと一日を過ごし、家族の面会も多いので、賑やかで楽しい共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が見守る中で和やかに過ごせるように介助や工夫をしている		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り普段から使っている物を置き家族とともに居心地の良い空間になる様に支援している	利用者の使い慣れた筆筒や机、椅子、鏡、家族のアルバム、生活用品等を持ち込んでもらい、自宅と違和感のない雰囲気配置し、利用者が安心して暮らせるように、居心地の良い居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限りの自立を支援できるように共有の空間に安全に生活が送れるように支援できている		